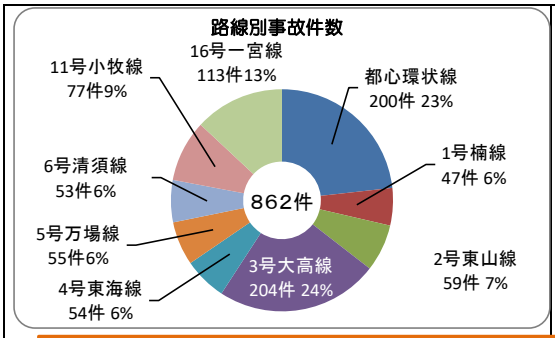
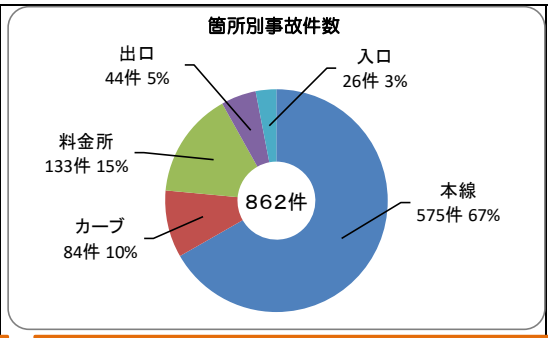
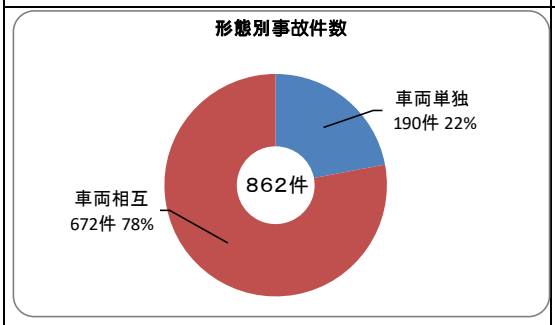
名古屋高速道路の交通事故の特徴（令和7年度）



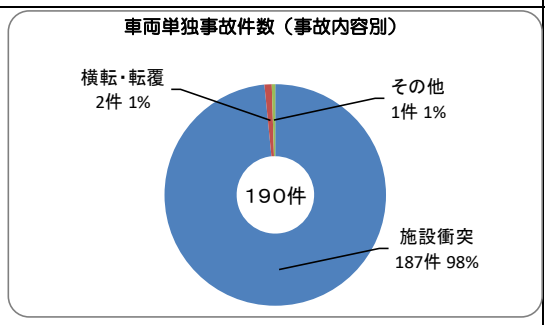
路線別事故件数では、交通量の多い都心環状線と3号大高線の割合が多くを占めています。



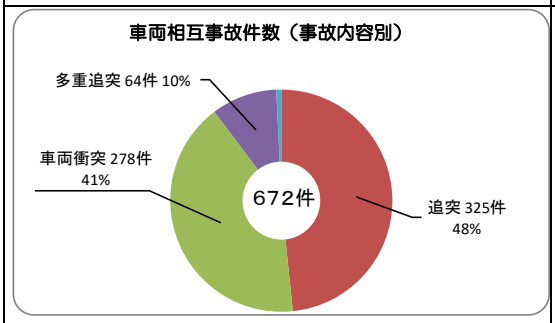
箇所別事故件数では、本線部での事故の割合が67%と多くを占めています。



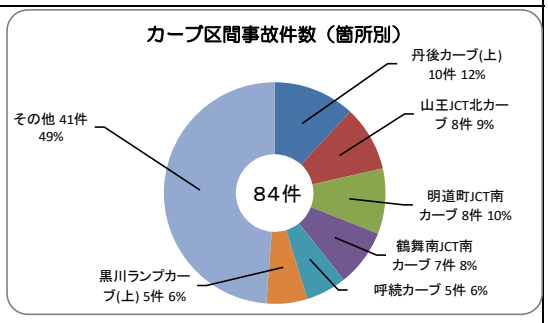
形態別事故件数は、車両相互事故が78%と多くを占めています。



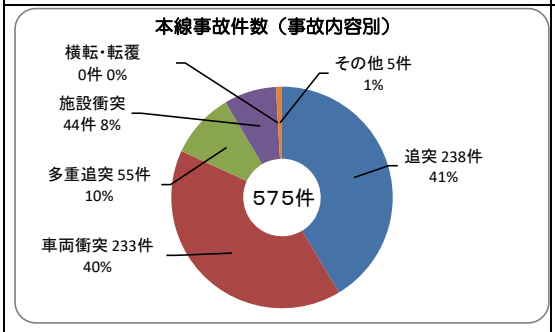
車両単独事故は、施設衝突事故が98%と多くを占めています。



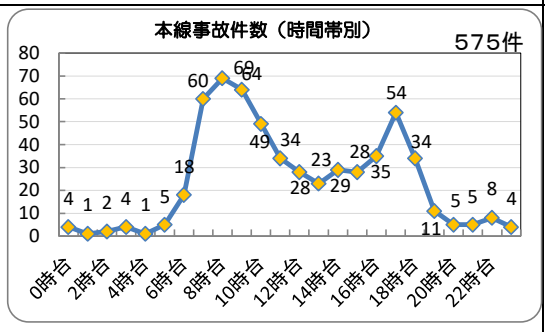
車両相互事故は、追突事故が48%、車両衝突事故が41%と多くを占めています。



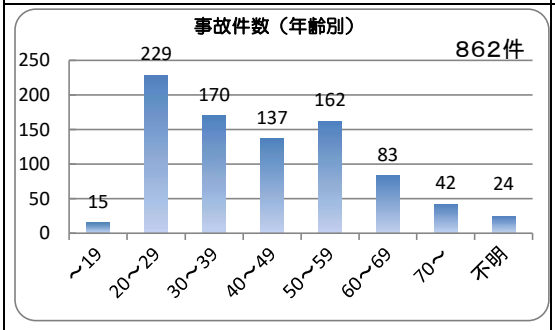
丹後カーブや都心環状線のカーブ区間での事故が多くを占めています。



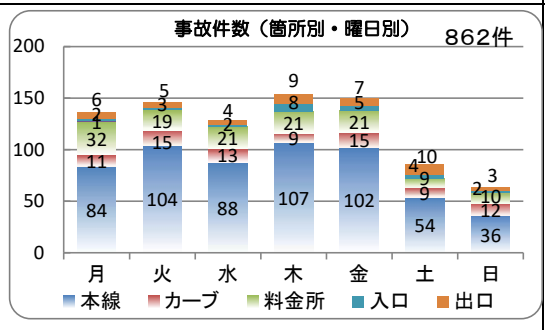
本線では、追突事故が41%、車両衝突事故が40%と多くを占めてします。



本線では、朝夕の交通量の多い時間帯に、多く発生しています。



年齢別では、20歳代の事故が多い傾向にあります。



事故は交通量が少ない土日に減少する傾向があります。